

宮井小学校総括評価表

		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指数と活動計画	評価	学校関係者の意見		
確かな学力を身に付けた児童の育成	(全校レベル) ①学ぶことの楽しさを感じる「わかる」「楽しい」授業を行う。 ②基礎的・基本的な内容の定着と、「読む・書く・話す」言語活動の充実を図る。 (下位組織レベル) ①一人一台タブレットを効果的に活用した授業をする。 ②特別活動を推進し、自分の考えを分かりやすく伝えることができるようにする。 [学力向上推進委員会] [学力向上部会]	<u>評価指数</u> ①-1「わかった」「できた」「たのしい」と思う児童の割合が90%以上ある。 ①-2「授業や課題を工夫した」教員の割合が90%以上ある。 ②-1「考えたり問題を解いたりする力がついてきた」および「自分の考えを話すことができていく」児童の割合が85%以上ある。 ②-2「基礎的・基本的な学力がつくように取り組んだ」「言語活動を充実させ、表現力や発表力がつくよう取り組んだ」教員の割合が90%以上。	<u>評価指数の達成度</u> ①-1 児童90% ①-2 児童96% ②-1 児童83%, 75% ②-2 教員87%, 68%	(評定) B (所見) 学力向上実行プランに基づいた取組を全校的に進めた。来年度は特別活動 児童の学力は落ちているのではないかという意見があった。少人数で丁寧な指導ができており児童は真面目に取り組んでいるが、自分から学習しようとする姿勢に欠ける部分がある。本離れが学力低下につながっているように感じる。読書の目的や必要感をもたせてほしい。 自分の言いたいことが言える力は、社会に出て責任をもって仕事をするにつながるので、しっかり身に付けさせてほしい。 統一大会の会場校であるため、表現力や発表力の育成に重点をおいた。目標には届かなかったものの児童の話合いや発表力は向上している。	「学力向上実行プラン」に沿った取組を全体で進めていく。同時に、学習の楽しさを感じたり学習が自分の未来へとつながっていることを意識させたりして、学ぶ意欲を高めていきたい。 また、特別活動に学校全体で取り組み、自分で考え判断できる力を身に付けさせていきたい。	
		<u>活動計画</u> ①児童の主體的な体験や活動（ICT機器、ホワイトボードの活用等）を授業に効果的に取り入れる。 ②-1「くじゃくタイム」を活用し、ドリルやプリントテストなどで定着を図る。 ②-2 話形の提示と普段から自分の考えを根拠を明確にして伝える習慣を付ける。	<u>活動計画の実施状況</u> ①ICT機器、ホワイトボードともすべての学年でよく活用できている。 ②-1「くじゃくタイム」の活用により、基礎的・基本的な学力が向上した。 ②-2 各学級に話形を提示し、根拠を明確に話す指導を行ったが、個人差があり課題が残る。			
自分も人も大切にできる心豊かな児童の育成	①児童と教師、児童間の信頼関係を基盤とした温かい学級・学校づくりを行う。 ②人権意識（「それ、おかしい」の醸成と自尊感情（「自分が好き」）の育成に努める。 ③気持ちのよいあいさつや正しい言葉遣い、美しい環境づくりに努める。 [人権教育部会] [特別活動部会] [特別活動教育部会] [校内支援委員会]	<u>評価指標</u> ①-1「学校生活が楽しい」「自分や友達のことを考えることができる」児童の割合が90%以上ある。 ①-2「仲間づくりを大切にした学級経営の充実を図った」教員の割合が90%以上ある。 ②「自分や友達のよいところを見つけ認めている」児童の割合が90%、「友達がいじめられたときにアクションを起こすことができる」児童の割合を100%にする。 ③「元気よく挨拶ができる」児童の割合が90%、「挨拶の指導を徹底し自らも率先してできる」教員の割合を90%以上にする。	<u>評価指数の達成度</u> ①-1 児童93%, 86% ①-2 教員82% ② 児童83%, 95% ③ 児童85%, 教員94%	(評定) B (所見) 本校児童の実態として、自尊感情が低いことが継続的な課題であったが、様々な活動を通して学校生活が楽しいと感じる児童は増え、向上しつつある。しかし、実践力の面では十分とは言えない。	児童の自己評価はもっと高くよい。自信をもってほしい。中学校に行つての不登校が心配である。原因として、人数差や家庭的な雰囲気の小中学校とのギャップが大きいこと、コロナにより他校の小学生との交流が十分でなく友達づくりができていないことなどが挙げられた。 また、地域との交流や地域の人と関わる機会を増やし児童を育ててほしい。 あいさつや美しい環境づくりについては、まずまずできているのではない。	不登校の対策として、特別活動を中心に自分できちんと考えて行動できるたくましさを身に付けたい。また、中学校入学時のギャップを見通した丁寧な指導を行うとともに、中学校入学時に同じ学年になる他校の児童との交流の機会を定期的に設けるようにする。 「ふるさとを学ぶ学習」を総合的な学習等の教育課程に意識的に組み込み、地域の人財を活用して地域への愛着を育てたい。
		<u>活動計画</u> ①-1児童一人一人を理解し共感的、肯定的に向き合い成長を支える。 ①-2 家庭との連携を密にし、ともに子供を育てるという意識で臨む。 ② 人権学習に学年・学校全体で取り組む。 ③ 朝の挨拶運動や清掃ボランティアを実施する。委員会を活用して児童が主体的に活動できるようにする。	<u>活動計画の実施状況</u> ①-1それぞれの教員が、児童一人一人を理解し共感的、肯定的に向き合う努力を続けた。 ①-2 保護者からの相談は迅速に対応し、家庭への連絡や必要があれば家庭訪問を実施した。 ② 学年や学校全体で取り組むことにより、共感的な雰囲気が醸成された。 ③ 6年生を中心に取り組んだ。代表委員会に参加しない児童で「きらきら」「ピカピカ」チームを作り、清掃活動に取り組んだ。			
心身ともに健やかな児童の育成	①「あるこうデー」の実施など、家庭と連携した健康・体力づくりを推進し、基本的な生活習慣の定着を図る。 ②「自分の命は自分で守る」判断力、行動力の育成に努める。(感染症・防災)	<u>評価指標</u> ①-1「規則正しい生活ができていく」「体育の授業や体を動かす活動を力いっぱいがんばる」児童の割合が90%以上ある。 ①-2 「基本的な生活習慣の定着や保健・安全に配慮した取組を行った」教員の割合が90%以上。 ②-1 全校で基本的な感染対策が徹底されている。 ②-2 避難訓練を年3回以上実施し、防災意識と実践力を向上させる。 ③-3 安全・安心に関わる情報提供に努め、定期的な安全点検を行う。	<u>評価指数の達成度</u> ①-1 児童64%, 92% ①-2 教員88% ②-1 終礼等で確認、問題点を共有しながら基本的な感染対策を徹底した。 ②-2 避難訓練を年3回実施した。また移動消防署や交通安全教室、不審者対応訓練等も実施した。 ③-3 必要な情報はHPや文書等ですぐに発信した。月1回安全点検を実施した。	(評定) B (所見) 規則正しい生活ができなかった児童の割合が低い。動画やゲーム等を遅くまでやっている児童	今の児童には、元気が足りない気がする。コロナもあるが、児童には時間がなく、余裕がない。ゲームやメディアなどの時間が増えることが、児童の生活を乱しているのではないか。 「規則正しい生活」について、動画やユーチューブ、ゲームなどを夜遅くまでやっている児童が一定数いる。生活についてのアンケート等を実施し児童の実態を把握した上で、メディアとの付き合い方について指導していく。生活チェックを平日にも毎日実施するように	

	[企画委員会] [安全教育部会] [養護部会]	<table border="1"> <tr> <th data-bbox="577 23 1030 55">活動計画</th> </tr> <tr> <td data-bbox="577 55 1030 359"> ①-1 自転車通学の規定を見直し、保護者の理解を得て自力登校できる児童を増やす。 ①-2 「生活チェック」等を利用して、生活の問題点に気付かせ保護者と連携して取り組む。 ①-3 楽しい体育の授業や体育的活動をする。 ②-1 校内において基本的な感染対策を徹底する。 ②-2 避難訓練を学期毎に1回実施する。 ②-3 保護者への適切な情報提供を行う。月1回は安全点検を実施する。 </td> </tr> </table>	活動計画	①-1 自転車通学の規定を見直し、保護者の理解を得て自力登校できる児童を増やす。 ①-2 「生活チェック」等を利用して、生活の問題点に気付かせ保護者と連携して取り組む。 ①-3 楽しい体育の授業や体育的活動をする。 ②-1 校内において基本的な感染対策を徹底する。 ②-2 避難訓練を学期毎に1回実施する。 ②-3 保護者への適切な情報提供を行う。月1回は安全点検を実施する。	<table border="1"> <tr> <th data-bbox="1030 23 1482 55">活動計画の実施状況</th> </tr> <tr> <td data-bbox="1030 55 1482 359"> ①-1 自転車通学の規定を見直し、児童および保護者への啓発活動を行った。 ①-2 毎日「生活チェック」を実施した。問題点に気付いても実行が伴っていない。 ①-3 体育の授業を工夫し、放課後の陸上や体操、水泳練習を実施した。 ②-1 具体的な方法を確認しながら進めた。 ②-2 避難訓練を学期毎に実施した。 ②-3 保護者への迅速で適切な情報提供を行った。安全点検を実施し、問題点は改善した。 </td> </tr> </table>	活動計画の実施状況	①-1 自転車通学の規定を見直し、児童および保護者への啓発活動を行った。 ①-2 毎日「生活チェック」を実施した。問題点に気付いても実行が伴っていない。 ①-3 体育の授業を工夫し、放課後の陸上や体操、水泳練習を実施した。 ②-1 具体的な方法を確認しながら進めた。 ②-2 避難訓練を学期毎に実施した。 ②-3 保護者への迅速で適切な情報提供を行った。安全点検を実施し、問題点は改善した。	が一定数おり、メディアとの付き合い方について指導する必要がある。それ以外のことはおおむね達成できた。	し、自分の問題点に気付かせ、家庭にも協力を仰いで、改善できるように意識付けしていく。 自力登校については改善されたので、保護者に協力を得ながら啓発活動をさらに続けていく。 安全教育については、地域と連携を図りながら進めていく。
活動計画									
①-1 自転車通学の規定を見直し、保護者の理解を得て自力登校できる児童を増やす。 ①-2 「生活チェック」等を利用して、生活の問題点に気付かせ保護者と連携して取り組む。 ①-3 楽しい体育の授業や体育的活動をする。 ②-1 校内において基本的な感染対策を徹底する。 ②-2 避難訓練を学期毎に1回実施する。 ②-3 保護者への適切な情報提供を行う。月1回は安全点検を実施する。									
活動計画の実施状況									
①-1 自転車通学の規定を見直し、児童および保護者への啓発活動を行った。 ①-2 毎日「生活チェック」を実施した。問題点に気付いても実行が伴っていない。 ①-3 体育の授業を工夫し、放課後の陸上や体操、水泳練習を実施した。 ②-1 具体的な方法を確認しながら進めた。 ②-2 避難訓練を学期毎に実施した。 ②-3 保護者への迅速で適切な情報提供を行った。安全点検を実施し、問題点は改善した。									

「評定」の基準 A：十分達成できた B：おおむね達成できた C：達成できなかった